



夏休みあけ

1日の始業の日、25Rでは欠席が一人もいなかったが、学年全体では6名の欠席があった。新聞やニュースなどでも話題になっていたが、8月末から9月初めにかけては、残念ながら18歳以下の自殺者数が多いということもあり、例えば「つらければ学校休んで」といったメッセージを発信している団体もあるという。いじめや嫌がらせを受けていた人にとっては、再びその空間に戻っていくことはつらいことに違いない。2006年に、タレントのさかなクンが発信したメッセージがなかなかイイので紹介しよう。

*

中1のとき、吹奏楽部で一緒だった友人に、だれも口をきかなくなったときがありました。いばっていた先輩が3年になったとたん、無視されたこともありました。突然のことで、わけはわかりませんでした。

でも、さかなの世界と似ていました。たとえばメジナは海の中で仲良く群れて泳いでいます。せまい水槽(すいそう)と一緒にいたら、1匹を仲間はずれにして攻撃(こうげき)し始めたのです。けがしてかわいそうで、そのさかなを別の水槽に入れました。すると残ったメジナは別の1匹をいじめ始めました。助け出しても、また次のいじめられっ子が出てきます。いじめっ子を水槽から出しても新しいいじめっ子があらわれます。

広い海の中ならこんなことはないのに、小さな世界に閉じこめると、なぜかいじめが始まるのです。同じ場所にすみ、同じエサを食べる、同じ種類同士です。

中学時代のいじめも、小さな部活動でおき

ました。ぼくは、いじめる子たちに「なんで？」ときけませんでした。でも仲間はずれにされた子と、よくさかなつりに行きました。学校から離れて、海岸で一緒に糸をたれているだけで、その子はほっとした表情になっていました。話をきいてあげたり、励ましたりできなかったけれど、だれかが隣にいただけで安心できたのかもしれない。

ぼくは変わりものですが、大自然の中、さかかなに夢中になっていたらいやなことも忘れます。大切な友だちができる時期、小さなカゴの中でだれかをいじめたり、悩んでいたとしても楽しい思い出は残りません。外には楽しいことがたくさんあるのにもったいないですよ。広い空の下、広い海へ出てみましょう。

*

ちなみに、1日に休んだ6名については、担任団の会議でも話題になったが、全員が体調不良(風邪)などの理由がはっきりしているので、特に心配しているわけではない。それでも、1日の始業にプレッシャーを感じた人もいるだろう。日比谷では、宿題が終わらなかったことが気になっていたり、宿題テストやそれに続く期末が不安だという人も多いに違いない。なかなか厳しい世界ではあるのだ。だからこそ、いじめや嫌がらせは見過ごさず、誰でもが安心して足を向けられる教室空間を維持することは、これから2年間を過ごしていく上でも、とても大切なことだと私は思う。25Rの教室が、そういう暖かな空間であり続けられるよう、私も含め、ぜひみんなが努力していきたいものである。